



ニーズ対応型の技術開発を目指して

商工観光労働部長 原田 耕藏

2004年3月13日に、県民の永年の悲願であった九州新幹線鹿児島ルート（鹿児島中央・新八代間）が開業しました。新幹線の開業は、県民の利便性はもとより、観光、産業活動、文化など様々な面で大きな効果が期待されているところです。

一方、本県を取り巻く社会経済情勢は、少子・高齢化の進行、国際化の進展、情報通信技術の高度化、環境問題への配慮といった構造的な変化が生じており、これらの課題への対応が求められております。

このような状況の中、県では、昨年12月に決定した「21世紀新かごしま総合計画第2期実施計画」の中で、食品関連産業や電子産業の集積などを生かし、産学官の連携を図りながら、技術の高度化や競争力のある新製品の研究・開発を促進するとともに、優良企業の立地促進に努めることとしております。

また、産学官による有機的な交流・連携及び研究成果の効果的な移転・普及を促進していくため、(財)かごしま産業支援センター、国立大学法人鹿児島大学地域共同研究センター等における産学官連携の窓口機能及び研究開発コーディネート機能の充実・強化を図っております。

その中で、産学官連携の下、様々な共同研究への取り組みが行われており、その研究成果が地域企業に移転・実用化され、本県産業の高付加価値化や技術の高度化に寄与しているところです。

産学官連携による共同研究の推進に当たっては、多様化する地域産業のニーズや市場動向等を的確に把握しながら、地域の特性・資源を生かしつつ、

地域的課題等に即応した研究開発の目標及び方向をより明確にし、実用化・産業化を見据えた取り組みを行っていくことが重要であります。

これらの取り組みに当たって、工業技術センターは、地域企業の「技術的拠りどころ」として、先端技術に関する研究開発をはじめ、新事業の創出や新分野の進出につながる研究開発に取り組むとともに、地域企業等との産学官連携による共同研究等を積極的に推進し、地域企業の技術開発や技術力の向上に寄与してきております。

本年度は、新たなテーマとして、「県産木材を用いた高耐力構造用フレームの開発研究」、「木質単板積層によるウッドパイプの品質向上に関する研究」及び「圧縮加工による複雑形状部品の試作支援技術の確立のための研究」に取り組んでおります。

我が国は今、ようやく長期低迷を脱し、新たな飛躍の段階を迎えつつあります。構造改革を進める中で、民間需要主導により、景気回復の裾野を着実に広げてきております。

しかしながら、地域回復動向にはばらつきがあり、大企業に比べ中小企業の状況は依然厳しいものがあります。

企業の皆様におかれましては、国等の公募型共同研究事業等を積極的に活用され、大学や工業技術センターなどの技術シーズを活用して、新事業・新産業の創出に結びつく研究開発に取り組み、本県地域経済の活性化・再生を図っていただきたいと考えております。